

カケラノチカラ

－出土片にみる江戸の暮らしと陶都瀬戸－

10月24日[土]～11月29日[日]

江戸時代、蒲郡中心部を治めた竹谷松平家。その屋敷地で発見されたのは大量の瓦と小さな陶磁器のカケラでした。このカケラたちから、お殿様の生活を探ります。

同時代の三河の各城の最新出土資料のほか、全国に陶磁器を供給した、瀬戸窯、美濃窯の資料を大量に展示し、陶磁器の魅力に迫ります！

蒲形陣屋発掘調査報告書 1,000円で販売します

講演会 窯業地「瀬戸」のやきもの産業について

とき 11月8日[日] 午後1時30分～2時30分

ところ 2階研修室、特別展示室

講師 瀬戸蔵ミュージアム学芸員 岩井 理

参加費 無料 ※申し込み不要



書道で使用する水滴
(瀬戸窯出土)



陶磁器(名古屋城三の丸遺跡出土)

竹島水族館
Aquarium

☎ 68-2059

館長の
ひょうたん



小林 龍二



いまだコロナがおさまらず、あまり外へ出られないのですが、あるじゃないかボクには海が。母なる海よ。大いなる海よ。

まずはハゼ釣り。お盆過ぎればサイズが大きくなって刺身にしやすい。ハゼの刺身はおいしい。食べた。しかし釣れない。ハゼ釣りなん

て釣れるよりもエサをつけている時間のほうが長いくらいのスパンでジャカジャカ釣れないとハゼ釣りはない。ようやく忍耐と根性で釣れたハゼは虐待レベルの小ささ。竿を放り投げて予定変更。寄ってきた野良猫の写真を日が沈むまで撮影してしまいました。

続いては水族館の船「たけすい丸」で大島周辺まで行き、ギマとヒイラギ(ゼンメ)釣り。早朝から船を飛ばして大島へ。しかし釣れない。忍耐と根性でやっとギマ1匹。今回はハゼと違って大きなサイズ。食べようかと思いましたが活かして持ち帰り展示水槽へ入れました。

成績が悪いので釣りはあきらめて同級生の漁師の船「ねこ丸」に乗せてもらい、佐久島周辺へ遠洋漁業。底曳網(まんが漁)に挑みました。ワタリガニ、シヤコ、エビ多数。やっぱり釣りなんてチマチマやってられない。私にとってこの夏最高の水揚げ量。という訳で最近では密にならない海へばかり行っており、おやみに日焼けして真っ黒人間になってしまいました。